

佳作

カブトエビがしんだ

大阪府 大阪教育大学附属平野小学校一年 大井 沙織

わたしのいえにはカブトエビがいました。エビズきのおとうとが、なまえにエビがはいつているいきものたまごを、たんじょう日にもらったのです。わたしはうらやましくて、気になって、じつとようすを見ていました。

はじめに、おとうとがたまごを二十こぐらい、水を入れたおさらにと入れました。まい日見ていると、二日ごの夕がたに一ぴき、三日ごのあさに一ぴき、とぜんぶで十二ひきの赤ちゃんが生まれました。生まれたての赤ちゃんはピョコピョコ手をうごかしたり、すいーっとはやくおよいだりして、とてもかわいかったです。赤ちゃんをまい日スポイトですって、ひろい水そうに入れました。こなのえさもあげました。でも七日ごのあさには、生まれて四日目くらいの子が一ぴきしかいませんでした。とても

ざんねんでしたが、まだ一ぴきいるのでおうえんすることになりました。でも、夕がた見ると水そうのそこをゆっくりおよいでいました。よるにはもううごかなくなっていました。おかあさんが、

「しんでる。」

と言いました。わたしはないてしまいました。せつかくそだてたのに、みんなしんでしまった…。おかあさんは、

「小さいうちはよわくて、そだつのはむずかしいみたい。のこりのたまごをそだててみる？」

と言いました。わたしはかなしかったけれど、カブトエビに大きくなってたまごをうんでほしくて、またそだてることにしました。こんどは十三ぴきの子が生まれました。大きい子が小さい子になんかいつもぶつかっていたので、小さい子をちがう水そうにうつしました。まい日じーとながはいじかん見ていると、元気がどうかわかるようになりました。元気な子は早くおよぎます。元気がない子はあまりうごきません。こんどは七日たっても三ぴき生きていて、しっぽがながく、体のいろもこくなってきました。九日ごには一ぴきしかのこっていませんでしたが、とっても元気におよぎまわっていました。わたしは

「この子だけでも大人になれますように」とおいのりしました。十一日ごのおひる、カブトエビのおよぎかたがいつもとちがいました。おかあさんは分からないみたいでしたが、クルクル回ってばかりでへんでした。夕がた、カブトエビはうごかなくなりました。小さいおさらに入れてよく見ると、からが体についていました。だっぴのと中でしんでしまったみたいです。もうわたしはなきませんでした。カブトエビはだっぴして大きくなろうとしていたのにしんでしまった、かわいそうでしたが、いっぱい生きてくれたからです。

わたしはきょ年ダンゴムシをかっていました。そのときはこうえんでとってきて、たまに土に水をはけるだけでした。たまごからそだてて、まい日おせわをしていたカブトエビはとってもかわいくて、ほんとうになが生きしてほしかったです。こんなうれしくなったりかなしくなったりしたのははじめてでした。またかえるチャンスがあったら、もっとながく生きてくれたらいいなおもいます。